

町家合宿 in 京都 2016夏の陣

～大学見学とまちなか観光～

山下桂永子

今回の合宿では印象に残ったことが沢山ありました。

夕飯のときが印象に残りました。食卓が細長かったため、離れたものを取る際にコミュニケーションが要りました。協力の大切さがわかったような気がします。しかし、夕飯のときに僕は座っているだけで、ちっとも準備などのお手伝いできませんでした。なので、次は、積極的にコミュニケーションをとって、先生や皆さんのお手伝いができるようになりたいです。

2日目、迷惑をおかけしたことは強く印象に残っています。夜景を観に行くときに財布を持たずに出たり、銭湯で鍵をなくしたりしました。1つ目については、予定を把握して、必要なものを考えれば防げたと思います。2つ目については、少し考えれば、ロッカーにそのまま鍵を入れるのが不適切だと気付いたはずですが、両方とも、僕が気を抜いたのが原因です。団体で行動するのだから、その場に応じた緊張感が必要だと思います。それが気遣いというものだと思います。これから気遣いを大切にしていきたいです。

行った場所で印象に残っているのは、妙心寺です。見るときに立つ位置によって、様々な姿が現れる雲龍図。それを見て僕は、物事は見る角度によって違って見えるのかもしれないと感じました。また、僕は歴史の勉強が嫌いで、歴史の話などはずっと避けてきたのですが、妙心寺の浴室の話聞いたときは、面白いと思えました。「歴史はつまらない」という思い込みにとらわれていたのかもしれないかもしれません。これからは、何事に関しても、一つの視点にこだわったり思い込みにしばられたりせずに、色々なことに挑戦していければいいなと思いました。

このように印象深い体験の多い合宿でした。その体験から学べたことも多かったと思います。3日間お世話になりました。ありがとうございました。

これは、中学校3年生Aくんが参加した町家合宿2016夏の陣の感想文である。A4の感想文用紙の上半分に手書きの小さな字でみっちり書かれていた。



☆町家合宿概要

町家合宿とは、(元)不登校であったり、(元)ひきこもりであったりする10代後半から20代前半の参加者ととも、京都市内の町家に泊まり、2泊3日(年に2回行うときは、内1回は1泊2日)で観光や大学見学などを行っているものである。私が大学院の修士2年時から始まって今年で11年目を迎えた。毎年5人前後が参加してくれていて、いつも半分ぐらいがリピーターである。今年行った2016年夏の陣は、参加者5名のうち3名が10代で初参加、2名が20代のリピーターであった。

町家合宿では、何をするのか、どこに行くのかなどは基本的には当日までノープランで、町家に着いてから参加者たちの希望をもとに決めていく。一方、毎年行ういくつかの同じイベントやルールもある。イベントには主なものに名刺交換と古着交換、大学見学などある。ルールには1食につき1人500円や1日の交通費500円などがある。すべて私なりに参加者が少し自分と向き合ったり、他者と向き合ったりすることに対しての仕掛けのようなものであるが、詳細についてはまたの機会に書かせていただくとして、今回は、冒頭の感想文を書いたAくんの話を中心に、町家合宿についてご紹介できればと思う。

☆Aくんについて

さて、Aくんと私の出会いは今から10年ほど前である。出会った頃はまだ幼稚園の年長だったと記憶している。私が週に1回勤務しているA市のフリースクールに、不登園?の子として通っていた。幼稚園に行けなかった理由は、集団になじめず、お友だちにケガをさせてしまうことがあったからと聞いている。本人もそのことを自覚していて、「ぼくが、ほかのこをおしたりしちゃうからようちえんにいけないんだ」と言っていたらしい。確かにその頃のAくんは、性格はまじめで明るい、衝動的で負けず嫌いな一面があり、みんなゲームやスポーツをするときに負けそうになると、苦しそうに顔の表情をゆがめて怒り出し、ルールそっちのけで他の子を押しつけて(たぶんAくんには人を押しつけている感覚はない)でも勝とうとするようなところがあった。私は、私の腰上ほどの身長でAくんを抱きかかえ、半ばヘッドロックをきめながら、笑顔で「だいじょうぶだよー。次がAくんのじゅんばんだよー。」などと言いながら、落ち着くまでなだめることが何度かあった。小学校は保護者の方のお考えで、人数の少ない学校の支援学級にと他市に転出していったのだが、その後、他市の学校でも不登校になり、またA市に戻ってきたところで、私が現在週に4日勤めるA市の適応指導教室に通室するようになり、並行して元のA市のフリースクール(A市では市の適応指導教室とフリースクールが連携して、在籍学校長の許可がおりればどちらに通っても出席扱いになる)にも通うようになった。その後、紆余曲折があり、今は別のフリースクールに電車で毎日通いながら、A市の適応指導教室にも月に1度ぐらい顔を出してくれている。そんなこんなで10年たって、現在、Aくんの身長は私よりも20cmは高くなっている。性格はまじめでおだやかで、少しだけシャイで、表情はあま

り変わらないが、礼儀正しく、ときおり冗談も言う。今中学校 3 年生であるのにも関わらず、数学は高校の微分積分などをやっている。誰から見ても高身長、高学力の好青年である。ただ本人は、自信がなく、今でも「ぼくはコミュニケーションが苦手です。だから高校はコミュニケーションが学べるところに行きたい」とよく言っている。

そんな私と出会って 10 年の A くんが、11 年目の町家合宿に初めて参加することになった。

☆A くんが町家合宿に参加した

町家合宿の対象者は中学校 3 年生以上としているので、私は今年初めて A くんを町家合宿に誘ったのだが、当初、私は A くんが参加してくれるとは予想していなかった。なぜなら、現在、私は A くんとは月に 1 回会うかどうかで、たまたま会えたので軽く説明をして案内チラシを渡したただけだったし、A くんの普段の生活は、月曜日から土曜日までフリースクールと塾と習い事でみっちりスケジュールがつまっっていて、昨年の夏はフリースクールのキャンプを 3 つもはしごしていたなど、「学校行ってへんのに、日本一忙しい不登校の子や（と、本人に伝えたらかなり笑ってくれた）」と思っていたからである。しかし A くんは私の予想を裏切り、誰よりも早く、メールで申し込みの意志を示してくれた。よくよく考えたら、「不登校、ひきこもりはアクティブではない」とか「宿泊行事と言えば山か海」というステレオタイプを打破すべく、めっちゃめっちゃ動き回る都会の町家合宿をあえてしているのに、なんで忙しい A くんが来ないと思ったんだろうと思うが、とにかく A くんからメールをもらったときは、驚きとともに、とても嬉しかった。

☆感想文より～A くんのお食卓と反省～

町家合宿の夕食は自炊である。朝昼晩、一食につき 1 人 500 円までと決まっているなか、一日目に集合した参加者に駅の改札で、「今晚なに食べたい？」と聞いて、その場でメニューが決まる。今年のメニューは 1 日目がカレーとサラダ。2 日目が、(ツナやカニカマなどリーズナブルなネタの多い) 手巻き寿司とそうめんであった。

A くんのお感想文にあるように、確かに食卓は、幅 70 cm ほど、長さ 2 m ほどの古い一枚板の古木を木組みに乗せただけの、雰囲気はあるが、使い勝手は二の次で細長く、10 人ほどが向かい合いながら食べるので、カレーをよそうのも、手巻き寿司で自分の食べたいネタを取るのも、「あれとって、これとって」のコミュニケーションが欠かせない。しかし A くんが「マヨネーズとってください」の一言を言うのにそんなに緊張をしているようには見えなかったし、手伝いをできずに悶々としているとは思ってもよらなかった。真夏の炎天下を歩き回る強行軍に疲れ果て、他の参加者が扇風機の前でぐったりしている中、むしろ A くんが一番手伝いをしてくれていたとさえ思っていたし、スタッフの間でもそんな話をしていた。

キャンプ慣れた A くんが、町家合宿と言う宿泊行事について、なんの不安もなかった

かと言えばそうではなかったのだということに感想文を読んで初めて気づくことになった。



町家の台所と食卓

☆感想文より～Aくんの忘れ物と私の反省～

Aくんの感想文にある、2日目の「迷惑をおかけしたこと」についてである。Aくんは自他共に認める忘れんぼうである。忘れんぼうについて、私もかなり自信があるので、よくお互いの忘れんぼう武勇伝を語り合う仲である。予定を忘れること、物をなくすこと、それはAくんにとっても、私にとってもおそらく一生つきあっていく、少々面倒な自分の性格である。いつだったかAくんはその自分の性格について、「ぼくがわすれないなんてこと、あるわけじゃないじゃないか！」という名言を放ったことがある。なんて素敵な自己受容と自己表現なんだろうと私はいたく感動した。そんなAくんが、時々「ぼくと山下先生はにてるんですね」と、口の端でにやっと笑いながら言ってくれることは、私にとって何か、その道のプロに認めてもらったかのような誇らしさを感じている。と言ったら、いつもそれで「迷惑をおかけして」いる私の周囲の人々や町家合宿の他のスタッフに、何を開き直っているのだと怒られるかもしれない。

しかし私と違ってAくんはとても努力している。以前はウェストポーチにメモとペンを必ずいれて持ち歩いていた。しかし、私「でも書いたメモなくしたりしない？あとメモを後で見るのも忘れるでしょ」Aくん「そうなんですよねー」ということで、Aくんは数年前から、スマホのアラーム機能とリマインダー機能を駆使して忘れんぼうへのシステム対策を行っている。そんなAくんがこの町家合宿で財布を持って出かけるのを忘れたことと、銭湯の靴箱の鍵を（一時的に）なくしてしまったことについて、Aくんはとても反省しているのであるが、これについては、私自身の今後に向けての反省にもしなければならない。

毎年2日目に古着交換というのを行って、（詳細はまたほかの機会に書かせていただくことにする）夕食後に、徒歩で行った銭湯帰りにその古着を着て、夜景を観に行くという順番なのであるが、徒歩で銭湯に行くわけだから、財布がその場で必要ないと判断する

のは当然である。「銭湯の後に古着を着て夜景を観に行きます」だけではなく、「またバスに乗るから 1 日乗車券を忘れないようにしてね」と一言添えておけば、それこそ防げたはずであるし、銭湯に慣れていない子が、靴箱の鍵やロッカーの鍵をどこにやったかわからなくなるなんてことは、忘れんぼう先達の私には当然予想できているし、実際、私は自分の鍵を忘れないように、「靴箱の鍵はここ、ロッカーの鍵は手にはめた」と 3 回以上は（心の中で）つぶやいていた。忘れんぼうの後輩のことをちょっと思いだせばよかったのである。まさに彼が感想文で書いている「それが気遣いというものだと思います」である。

☆感想文より～Aくんの観光～

最後にAくんが印象に残ったと書いたのは、観光である。

町家合宿では、観光に行く場所を決める際に、1 日目の夕方に参加者には「行ってみたいやってみみたいことランキング」という紙を渡して、京都市内のガイドブックを見ながら 1 位～3 位まで書いてもらっている。全員の希望が出揃ったところで、予定を決めていくのだが、毎年具体的に行きたい場所や、やりたいことが参加者から出るときもあれば、出ないときもある。2016 夏の陣については、比較的、参加者の希望がはっきりしていたので、予定がすすめやすかった印象がある。

A くんが書いたのは 1 位「なにか京都のものを食べたい。・ラーメン・ゆば・出町ふたば・洛匠・錦市場←ここ行きたいです」2 位「有名なところに行ったり、京都の大学をめぐったりしたい。」3 位「散歩しつつ京都の通りを覚えたい」であった。

1 位のラーメンは 3 日目の昼食に京都の有名なラーメン屋に行き、出町ふたば（大福が有名）洛匠（わらびもちが有名）については、他にも和風スイーツが食べたい希望者がいたので、カキ氷とみたらし団子、わらびもちなどが有名な甘味どころで 2 日目に堪能、錦市場は 3 日目に出かけ、A くんはお土産に和菓子を買っていた。3 位については、観光しながら京都の通り名の歌を、京都通のスタッフに教えてもらっていたように思う（東西だけでなく南北の通りにも歌があるんだよといううんちく付で）。

2 位の有名なところ、京都の大学については、2 日目に金閣寺に行った後に、立命館大学を散策（学食で昼食を食べたり、生協でお買い物をしたり）し、3 日目に花園大学を散策（入試課で資料をもらったり、朝のお勤めなどする講堂に入らせてもらったり）した後に妙心寺に行った。妙心寺に行くまでは、その前日に行った金閣寺や本能寺に比べると地味な印象（私見です）だったのだが、広い敷地の中で、セミの大合唱の中、歴史ある建物を眺めながら歩き、大きな八方にらみの雲龍図を真下からじっくり眺め、国宝の鐘の音を聞き、浴室を見学してみると、私自身、とても歴史にワクワクするとともに厳粛な気持ちになった。入浴が修行であり、慰霊であることの意味をお寺の方の朗々たる説明で知り、A くんも表情には出さないが、私と同じようにワクワクしていたのかもしれない。

☆A君の反省と学び

Aくんはワクワクするだけでなく、八方睨みの龍が、見る角度によって表情や姿を変え
るということに、狩野探幽が（製作期間）8年がかりで伝えたかった仏法の思想というもの
を感じ取り、自分に生かそうとしている。観光なのに、最後の最後までAくんはまた反省
している。まじめすぎる。とは思うが、もしかしたら高度なテクニックを駆使したウケ狙
いなものかもしれない、とちょっと疑ってしまうぐらい反省を通り越して内省している。

さらに、今まで興味を持てなかったものにも興味を持ち、これが学びだと感じている。A
くんはこの10年間、ほとんど学校という場所には行っていない。行こうとしたこともある
が、それでも学校に行っていない。それなのにAくんは、学ぶということを知っている。
今、Aくんは高校受験に臨んでいるし、そしてその先の大学受験の勉強もしている。Aくん
にとって学校とはなんだろうと聞いてみたくなった。

☆Aくんと私の町家合宿～2016夏の陣～

Aくんの反省文を読んで、Aくんと10年を振り返り、誇らしいやら、うれしいやら、
穴があったら入りたいやら、様々な気持ちが湧いてきた。今Aくんに会ったなら「なにい
ろいろ反省してんねん！そんなん一ミリも必要ないし！」とにやけてツッコミをいれる私
と口の端でニヤッと笑うAくんの姿を想像してしまう。

町家合宿では、普段適応指導教室や、フリースクールで関わっている子どもたちの違う
一面が見られて、そのことから私は多くのことを学んでいる。私にとっての対人援助とは
なんなのかという振り返りやメンテナンスを1年に1回行っているような気がしている。

案内チラシ



町家合宿 in 京都 2016夏の陣

～大学見学とまちなか観光～



日 時：平成〇年〇月〇日（〇）～平成〇年〇月〇日（〇）

参加費：〇〇円（宿泊費、食費、交通費、観光費、保険費用を含みます）

宿泊先：〇〇〇

☆京町家を改修して宿として利用している建物です☆

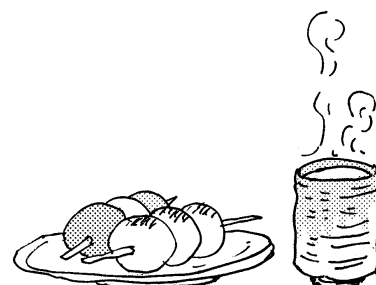
冬は寒く、夏は暑い京都ですが、町家の中は夏を涼しく過ごす工夫がされています。

というわけでクーラーはなく、扇風機でがんばりましょう！

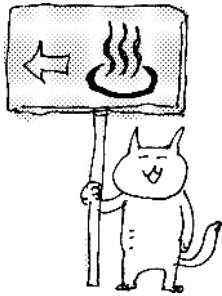
スケジュール（1日目）

15:30 〇〇駅〇改札集合。徒歩で宿へ移動。

16:00 夕飯の買出しをしつつ宿泊地「〇〇〇」到着。



- 16:00 宿チェックイン
- 16:30 自己紹介と今後の予定を決めるお話。
- 17:30 夕食の調理開始
- 18:30 夕食
- 20:00 入浴（宿にお風呂はないので徒歩で銭湯へ。
シャワールームはあります。）



2 日目

起床～ みんなで決めたスケジュールで大学見学と京都観光

17:00 夕食の買出しと調理開始

18:30 夕食

20:00 入浴

3 日目

起床～ みんなで決めたスケジュールで大学見学と京都観光

14:00 解散

持ち物：宿にバスタオル、シャンプー、歯ブラシ、寝間着はありません。

保険証のコピー（あれば）、学生証（あれば）

その他必要と思うものを持参してください。



お問い合わせ・お申込み先

池田市教育センター 山下桂永子（やましたけえこ）

Tel ○○○

Fax ○○○

E-mail ○○